

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年12月 5日更新

事務事業名		下水道(汚水)施設維持管理事業(ポンプ場)				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	生活環境の健康			所属部	水道局	課長名	岡田 光弘
	施策	20	水の安定供給と排水の浄化			所属課	上下水道課	担当者名	鍋田 将文
	施策の柱	61	排水の浄化			所属班	管理工務班	(内線)	1156
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	根拠法令	下水道法	水質汚濁防止法
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☒ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 28 年度) ☐ 期間限定複数年度		
								成果優先度評価結果	
								コスト削減優先度評価結果	

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	単独公共下水道事業、流域関連公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業計画として整備(改造)した汚水中継ポンプ場6箇所(大池、小池、筒井、村廻、すすかけ台、杉並台)及びマンホールポンプ場56箇所(流開公共:14箇所、特環公共:28箇所、農排:8箇所)を適切に運転及び維持管理する事業である。 運転及び水質並びに施設の維持管理などを、専門業者に委託しているが、業務に必要な消耗品、燃料等の適宜調達管理、機器の故障や不具合に対する保障・改修は直接市が行っており、委託する維持管理状況の確認、指示、指導及び法定検査への対応を行うものである。 供用開始から30年以上を経過する設備もあり、老朽化が進んでおり、5年前と比較すると設備の補修箇所が増えている。
【業務の流れ】	①故障報告受付、②現地調査(緊急であるかの判断)及び改善策の検討・決定、③修繕工事契約事務、④現場打合せ、⑤竣工検査事務、⑥支払事務 ・維持管理運転委託事務(年間契約:①現況確認、②維持管理業務設計・積算事務、③維持管理業務契約事務、④月毎の支払事務、⑤運転管理業務の確認及び指示・指導・消耗品、燃料の適宜調達事務、・法令検査等対応事務
【主な予算費目】	需用費(備用品費、光熱水費、施設修繕費、燃料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費
【意見や要望】	国や県から、東日本大震災による下水道施設等の破損の情報や災害への備えに関する指導等が増えた。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分: 新規
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO) 汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ施設の機能を保持するため、専門業者への業務委託により適切な運転管理、保守、点検を行った。また、各設備の故障や劣化に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行った。		29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ施設の機能を保持するため、専門業者への業務委託により適切な運転管理、保守、点検を行った。また、各設備の故障や劣化に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行った。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 委託件数(保守、点検)	件	企業会計区分に基づく、ポンプ場費への移行に伴う増。
イ: 補修件数	件	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ場		→ ア: 汚水中継ポンプ場数
		→ イ: マンホールポンプ場数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
支障なく稼働できる。		→ ア: 不具合やトラブルの発生件数
		→ イ: 不具合やトラブルへの対応率
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
不具合やトラブルの発生件数及びその対応率をみることで、汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ場の機能が保持され、支障無く稼働できたかどうかを判断できると考えた。		全体計画
		～年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	実績(決算)	実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア 件	件			5	5	5	5	5	5
	イ 件	件			15	14	15	15	15	15
② 対象指標	ア 箇所	箇所			6	6	6	6	6	6
	イ 箇所	箇所			56	56	58	58	58	58
③ 成果指標	ア 件	件			20	25	20	20	20	20
	イ %	%			100	100	100	100	100	100
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円		34,803	27,185	50,765	56,829	56,000	56,000
		繰入金	千円							
		一般財源	千円							
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円		34,803	27,185	50,765	56,829	56,000	56,000
		(A) のうち指定経費	千円		0	0	0	0	0	0
		(A) のうち時間外、特勤	千円		0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円		0	0	0	0	0	0
人件費	正職員従事人数	人			0	3	0	0	0	0
		延べ業務時間	時間		0	780	0	0	0	0
	(B) 人件費計	千円			0	0	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)			千円		34,803	27,185	50,765	56,829	56,000	56,000

事務事業名	下水道（污水）施設維持管理事業（ポンプ場）	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	-----------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した 施設に精通した専門業者に業務を委託し適切な運転管理、保守及び点検を行ったこと、また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し、優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行ったことにより目標を達成できた。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 日常の点検管理等により施設の状況を把握しており、突発的な不具合に対して適切な補修等に対応することにより、目標達成の見込みはある。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 老朽化した施設の改善必要箇所を事前に把握することにより、不具合の発生や故障箇所を減少させ、円滑な運転管理につなげているが、施設の機能が保持されることが成果であり、向上の余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似する他の下水道事業等の維持管理事業があり、作業的な連携は既に行っている。しかし、対象施設が明確に分けられており、現時点での統廃合はできない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現状でも他の類似施設と連携して最小の事業費で運転管理を行っており、これ以上の削減の余地はない。さらに、設備の老朽化が進み、補修や改修に要する経費は増加していくと考えられる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現状でも最小の人員で、他の事業との兼務により取り組んでおり、これ以上の削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 合志市下水道条例に基づき、受益者から使用料を応分負担して頂いており、公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 施設の運転及び維持管理業務のほとんどを専門業者に委託しており、その財源は使用者からの使用料である。技術的な専門性や緊急時の即時対応など、信頼性及び安全性の観点から、現時点で地域や住民に移行することはできない。

3 評価結果の総括（CHECK）

緊急を要する修繕等、急な故障にも適切に対応でき、施設の機能が保持され、支障無く稼働できた。電気や機械など、特殊な設備が多く、不具合箇所の早期発見及び計画的な更新を行うため、専門業者による保守点検にも取り組む必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							